

秋田県町村会

町村長行政視察研修報告

藤里町長 佐々木 文明

平成27年度において、秋田県町村会では町村長の行政視察として、一昨年に計画して台風上陸により急遽中止になった九州長崎県、佐賀県の先進事例を学ぶため、8月26日(水)～8月28日(金)までの3日間にわたり、県内12町村長全員が参加して実施されましたので、その概要について報告いたします。

◇8月26日(水)

午前9時15分に秋田空港集合で、9時40分の飛行機に搭乗する予定でしたが、出発が少し遅れたことで、羽田空港に10分遅れて到着し、我々を含めた乗継ぎ者をバスで移送してくれましたが、11時15分定刻出発から10分程遅れて出発となりました。長崎空港には、ほぼ定刻どおり到着し、空港で待っていてくれたラッキーパーブで市内に向かいました。

最初の視察は長崎県美術館で、ここは秋田県出身外交官である須磨弥吉郎の個人コレクションを母体としており、町村会前会長であった齋藤正寧さんが一昨年の視察計画の際、事務局に「秋田県人たる者、須磨コレクションを見ておくよう

に。」と言われたとのことでした。折しもここでは瀬戸内寂聴の企画展も開催されており、この様な機会でないとも全く分からない寂聴の知られざる面を堪能することができました。

次に向かったのが三菱重工長崎造船所で、敷地内を巡り、明治日本の産業革命遺産に登録されたジャイアント・カンチレバークレーンの大きさに圧倒されながら進むと、赤煉瓦の史料館があります。



クレーン

ここは、明治31年三菱合資会社三菱造船所の鋳物工場に併設された「木梓場」として建設されたもので、三菱重工業株式会社発祥の長崎造船所に現存する最も古い建物です。

この日最後の訪問は、日本が鎖国をしていた200年間で唯一世界に開かれていた「出島」です。19世紀、島内には住居や料理部屋、蔵、番所など49棟もの建物があり、現在そのうちの25棟を復元させるための事業が進んでいます。

ホテルにチェックインした後、夕食は長崎独特の「卓袱料理」。一卓一卓に大皿で人数分の料理を盛る卓袱形式(朱塗りの円形テーブルを卓袱(しつぽく)と呼ぶそうです。)は、身分の上下に関わらず、円卓を囲むことができ、しかも簡単に合理的なため、町人が多い長崎で大いに受けたとのこと、特に宴席で好まれるようになり、長崎における郷土料理の代名詞として愛されています。

◇8月27日(木)

この日は、まず国宝・大浦天主堂を見学しました。大浦天主堂の正式名称は「日本二十六聖殉教者天主堂」と言い、1597年に日本で最初に殉教した日本26聖人たちに捧げられた教会で、殉教の地である西坂に向けて建てられています。



大浦天主堂

午前11時に、佐賀県武雄市の図書館に到着しました。小松政町長から歓迎を兼ねた武雄市の概要説明の後、図書館の担当より武雄市図書館の概要について説明を受けました。ニュース等にも度々取り上げられ、ご存知の方も多いと思いますが、レンタル大手のTSUTAYA(ツタヤ)を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)がスターバックスとも連携して指定管理者として運営し、昨年4月から新装オープンとなったことで知られています。蔵書は20万冊を越え、全てが閲覧可能となっているほか、図書館としては例のない年中無休で、朝9時から夜9時まで開館し、前年度の入館者数が80万人、貸出図書も48万冊を越えているとのこと。アンケート調査では利用者の38%が市内で、県内はもとより遠く福岡県、熊本県も含まれているとのこと、利用範囲は日本全国どこでも可とし、全国どこでも500円で宅配便により返却できるとのことでした。



武雄市図書館

昼食をはさんで午後2時に次の訪問先である白石町に到着しました。田島健一町長より白石町の概要を説明していただいた後、農業の概要について担当から説